（第３回）

世田谷区立深沢小学校改築基本構想検討委員会

会議次第

令和８年１０月２６日（月）午後２時００分～
会場：深沢小学校　視聴覚室

【議題】

１　第２回検討委員会議事要旨の確認について
　資料１　第２回世田谷区立深沢小学校改築基本構想検討委員会議事要旨

２　基本方針（案）について
　資料２　世田谷区立深沢小学校改築基本構想　基本方針（案）

３　配置計画（案）について
　資料３-１　配置計画（案）の比較検討図
　資料３-２　想定ステップ図

○　**第４回検討委員会について**
令和８年１２月１７日（木）午前１０時００分～
会場　深沢小学校　視聴覚室

○　**第５回検討委員会について**
令和９年２月１日（月）午前１０時００分～
会場　深沢小学校　視聴覚室

資料１

第２回　世田谷区立深沢小学校改築基本構想検討委員会　議事要旨		
日時		令和８年９月２日（火）９：30～10:30
場所		深沢小学校　１階視聴覚室
出席者	委員	９名　（鈴木、荻野、小林、須藤、羽川、青木、菅井、山田、玉野）
	事務局	世田谷区　教育委員会　奥、二宮、久津輪、河野、加納、武井
	関係部署	世田谷区　施設営繕第二課　大槻、原田
	基本構想見直し検討支援事業者	株式会社久米設計　川井、斎藤、矢野

【配布資料】

- 資料１　第一回検討委員会　議事要旨
- 資料２　検討委員会スケジュール
- 資料３　基本方針（素案）
- 資料４　「区立学校のプール施設整備と水泳授業等のあり方」一部改訂（考え方）について
- 資料５－１　児童用アンケート
- 資料５－２　教職員用アンケート
- 資料５－３　保護者・近隣用アンケート
- 資料６　深沢小改築だより第２号
- 資料７　児童ワークショップ報告書

議題

１）第一回検討委員会議事要旨の確認について

- 【事務局】第一回検討委員会議事要旨を説明。修正があれば、9/9 までに事務局に連絡してほしい。修正がない場合には、区の HP にて公表予定。

２）基本構想策定の進め方の見直しについて（報告）

- 【事務局】９月１日に「区立学校のプール施設整備と水泳授業等のあり方」の方針が示されたことや樹木の伐採など前提条件の変更の影響に伴い、今回提示予定であった計画案は第三回検討委員会での提示に変更となる。このスケジュール変更に伴い、当初第三回検討委員会の前に実施予定であった中間説明会を１１月９日に変更、またアンケートは中間説明会を受けて回答する方を考慮して、１１月に延長する。第四回検討委員会ではアンケートの集計結果の報告、第三回検討委員会や中間説明会の意見を受けた検討案の提示を行う。第五回検討委員会では、配置計画、ゾーニング・外構計画案の提示に加え、ローリング計画や基本設計で考慮すべき事項のまとめを行うスケジュールとする。

  ⇒【委員】意見なし。

３）基本方針（素案）について

- 【事務局】第一回検討委員会の意見を反映した基本方針（素案）を提示した。前回３・４の大項目「地域コミュニティの拠点となる学校」と「安全・安心で持続可能な学校」を統合し、「地域交流の拠点となる、安心・安全な学校づくり」とすることで、学内だけでなく、地域のこども・近隣住民が深沢小と関わることのできる環境づくりという方針とした。
- 【委員】深沢小の女子バスケットボールチームは世田谷区で最多の部員数を誇り、その他サッカーや野球など他学区から参加する児童も多いことを考慮した整備となるとよい。
- ⇒【委員】スポーツだけにとどまらず、基本方針の３項目に掲げているように地域活動が盛んな「まちの居場所」として整備していくことを強調していく。
- 【委員】全体を通じて、包括的な文言に変更され、書かれている内容は深沢らしさが表現されていてよいが、４つの柱となる大項目にも深沢小らしさ、特色が感じられる内容にしていきたい。
- 【委員】年６回の野菜収穫体験、サマースクール「深沢工房」（地域人材が講師となる多数の講座を複数日にわたり開催）、キャリア教育（各分野のプロを招いた体験型授業）銀杏まつり（20年の歴史がある、地域の全団体が参加する学校主体の地域イベント）など学校独自の取り組みがよく見られるので、そうした特色も基本方針に反映されるとよい。
- 【委員】防災に関して、町会の防災倉庫の配置（防災倉庫は学校敷地内へ、医療物資保管場所は保健室の周辺へ）など、医療救護所としての機能強化をしてほしい。

⇒【事務局】第３回検討委員会までに事務局にて、本日の意見を反映した基本方針素案をまとめ、深沢小学校らしい基本方針に仕上げていく。

４）プール施設整備について（報告）

- 【事務局】教育委員会より「今後の小学校改築にあたり、屋外プールは原則設置しない」方針が示された。特に改築工事の予定で整備方針を早期に決定する必要のある、深沢小学校・八幡小学校の２校については、プールを設置しないことで方針決定がなされた。深沢小学校では教職員の協力により、現在はプール授業を適切に実施できているが、区全体としては屋外プールでは近年の酷暑などにより、安定的に授業の質を担保できる体制を整えることは難しいと判断した。これに伴い、深沢小学校では当面、玉川中学校の温水プールをバス移動で利用することとし、将来的には、駒沢中学校に新設される温水プールをバス移動で利用する計画とする。バス移動が発生することによる、授業時間の短縮などは、インストラクターを配置することで、短い時間でも授業の質を補完することを目指す。
- 【委員】昨今の気候も考慮してプールを設置しない方針とすること自体はやむを得ないと考える。これまでの整備計画案でプールを含めた棟を東側に設けるとした場合、近隣への日照や視認性の影響が伴う懸念の声なども耳にする。
- 【委員】インストラクターの配置など授業の質を担保する条件が整うのであれば、方針を受け入れる。一方で、移動時にバス利用を行うとのことで、周辺道路が狭小であるため、乗り入れ場所や経路などの懸念もある。運用方法はよく検討してほしい。
- 【委員】プールは防災・消防水利の面で有効であったが、改築工事にて代替となる設備は計画されるか。

  ⇒【事務局】世田谷区の条例にて、敷地面積に応じた必要量を満たす防火水槽を設けることが必須となるため、今回の改築工事でも計画される。近年の改築校では、校舎下の基礎部分を水槽に活用したり、グラウンドに水槽を埋めるなどで対応している。

  ⇒【委員】近年、集中豪雨なども多いが、雨水対応も行われるのか。

  ⇒【事務局】雨水対策も同様に条例にて定められているため必要雨水対策貯留量を満たす水槽を設けるなど対応を行う。

⇒【委員】災害時、特に停電時の対応はどのようなものが見込まれるか。
⇒【事務局】近年の改築校では省エネの観点から、太陽光パネルを設置するケースが多い。
避難所なので、ガスで発電する設備を設置する等して、ある程度の電力は確保したい。
⇒【委員】町会にはポータブル発電機程度はある。学校に発電機は設置されているのか。
災害時、１００から２００人が避難した際に有効な発電機を設置する等の決まりはないのか。
⇒【事務局】現在の防災倉庫にガスやガソリンの発電機はあるが、照明や携帯電
話の充電が可能な電力を 1 日分程度賄える。空調機を稼働させる程の電力はない。
⇒【事務局】現在、小学校には空調機をまかなえるほどの発電機は設置されていない。
⇒【委員】　8 年度ほど前に建て替えたまちづくりセンターからは、５KW で 3 日ほど稼働で
きる発電機を設置している。空調機を稼働できるほどの発電ではない。学校については、蓄電池
が必要ではないか。と検討している。

５）アンケート（案）について

■ 【事務局】対象別に 3 種類のアンケートを作成。児童向け（上学年対象)、教職員向け、保護者・近隣住民向けで用意しており、基本は QR コードによる回答を想定している。近隣住民については紙で回答する場合を考慮して、郵送または深沢小学校正門にポストを用意し投函してもらう方法を想定している。アンケートの結果については、第四回検討委員会にて報告予定。

⇒【委員】意見なし

６）改築だより第２号（案）について

■ 【事務局】10 月 20 日に深沢小学校近隣住民へアンケートと合わせて配布予定。

近隣住民向け説明会（11 月 9 日）：午後 4 時・午後 7 時の 2 回開催（同内容)、会場は小学校視聴覚室の予定。

⇒【委員】きりのっきーは、100 周年キャラクターのデザインへの変更を検討してほしい。

７）児童ワークショップについて

■ 【久米設計】6 月 9 日に 6 年生を対象、国語の授業「聞いて考えを深めよう」をテーマにしたワークショップを実施した。子どもたちは学校の好きなところを調査し、校長・栄養士・主事などの学校関係者へのインタビューを行い、グループ発表・意見交換を行った。児童から多く聞かれた意見の一つが「給食がおいしい」であり、インタビューを通して調理員や栄養士の思いや工夫を知り、児童の食への感謝意識が高まった様子。

■ 【久米設計】「自然が豊か」という意見も多く、校長や主事が日々手入れしていることを知り、先人の思いが受け継がれて現在の学校環境になっているという気づきが生まれた。その他にも校庭の広さ・桐の木（ケヤキ）のシンボル性・農園・収穫体験・図書室・屋上の活用など、施設の特徴が学びや居場所に結びついている。

■ 【久米設計】見守り活動（小走り隊）や銀杏まつりなど、地域が学校と深く結びついている文化的活動が子どもたちの安心や活力につながっているとの分析が示された。ワークショップを通じて、施設・自然・人・地域の関わりが一体となって深沢小学校のアイデンティティを形成していることが確認され、今後の新築計画に反映していく。

⇒【委員】学校の見守りについては駒沢町会が 20 年以上 1 日 2 回の活動を行っている。

⇒【委員】銀杏まつりは 20 年前に当時は捨てていた銀杏の実を地域に配る活動が発展したもので、現在は地域の団体がほぼ１００％参加しており、これからも継続したい活動の一つ。

⇒【委員】地域活動など多くを知る機会となった。まちづくりセンターと複合化することで、もともと地域交流が盛んな深沢において、更なる地域交流の拠点として特徴的な学校整備が進められるとよい。

８）次回検討委員会について

■　令和８年１０月２６日（月）午後２：００～　会場：　深沢小学校 視聴覚室

以上

参考

世田谷区立深沢小学校改築基本構想　基本方針（案）

【１．多様な学びと成長を支える学校づくり】

・子どもたち一人ひとりの個性や興味・関心を尊重し、主体的・協働的・探究的な学びを地域とともに支える教育環境を整備します。
・~~多様な学習形態など~~新しい時代の学びに対応するとともに、学年や教科を超えた交流や日常的なコミュニケーションを促し、学校全体が学びの場となる~~ような~~空間づくりを目指します。

【２．思いやりを育み、誰もが安心して過ごせる「居場所」となる学校づくり】

・子どもたちが安心して学び、過ごす~~し、誰もが自分らしくいられる~~「~~心の~~大好きな居場所」となる学校を目指し、~~ます。~~地域学校への愛着を育みます。
・ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが安全・安心に利用できる学校とします。
・明るく快適な室内環境や、落ち着いて過ごせる居場所、多様な活動を受け止める空間を整備し、互いの個性や多様性を尊重しながら、思いやりの心を育むことができる学校づくりを進めます。
~~・異学年交流や日常的なコミュニケーションを促す空間を整備し、豊かな人間関係やコミュニケーション能力を育む環境を創出します。~~

~~【３．地域交流の拠点となる、安心・安全な学校づくり】~~
【３．学校とまちがつながり、深沢地区とともに育つ学校づくり】

・学校とまちづくりセンターの複合化を活かし、多世代交流や地域活動、学びの機会を創出し、~~地域に親しまれる~~深沢への愛着を育む「まちの居場所」となる環境を整備します。
・校庭や学校施設を活用し、深沢のすべての子どもたちが、深沢小と関わることの出来る環境を整備します。
~~・防犯性や見守り性に配慮するとともに、子どもたちが安全・安心に学校生活を送ることができる環境を整備します。~~
・日ごろの防犯や見守りやすさに配慮し、災害時には深沢の避難所・防災拠点として安全かつ円滑に利用できる施設計画とし、子どもとまちを守る学校づくりを進めます。

~~【４．自然を感じ、環境を学べる学校づくり】~~
【４．深沢の自然と伝統を受け継ぎ、未来へつなぐ学校づくり】

・緑や光、風などの自然環境を積極的に取り込み、子どもたちが季節のリレーを感じながら~~過ごせる、快適であたたかみのある~~自然とふれあえる学校を整備します。
・木材の活用によるあたたかみのある空間をつくり~~づくりや、自然と触れ合える環境を整備するとともに、~~環境配慮の取り組みを「見える化」することで、学校そのものが環境学習の場となることを目指します。
・児童等の安全のため伐採が必要となる桐やイチョウなど既存樹木については、木材利用や学校の伝統記憶の継承につながる活用を進め、深沢の風景や自然との交流~~や風景の記憶~~を次世代へ引き継ぐ学校づくりを進めます。

世田谷区立深沢小学校改築基本構想　基本方針（案）

【１．多様な学びと成長を支える学校づくり】

・子どもたち一人ひとりの個性や興味・関心を尊重し、主体的・協働的・探究的な学びを地域とともに支える教育環境を整備します。
・新しい時代の学びに対応するとともに、学年や教科を超えた交流や日常的なコミュニケーションを促し、学校全体が学びの場となる空間づくりを目指します。

【２．思いやりを育み、誰もが安心して過ごせる「居場所」となる学校づくり】

・子どもたちが安心して学び、過ごす「大好きな居場所」となる学校を目指し、学校への愛着を育みます。
・ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが安全・安心に利用できる学校とします。
・明るく快適な室内環境や、落ち着いて過ごせる居場所、多様な活動を受け止める空間を整備し、互いの個性や多様性を尊重しながら、思いやりの心を育むことができる学校づくりを進めます。

【３．学校とまちがつながり、深沢地区とともに育つ学校づくり】

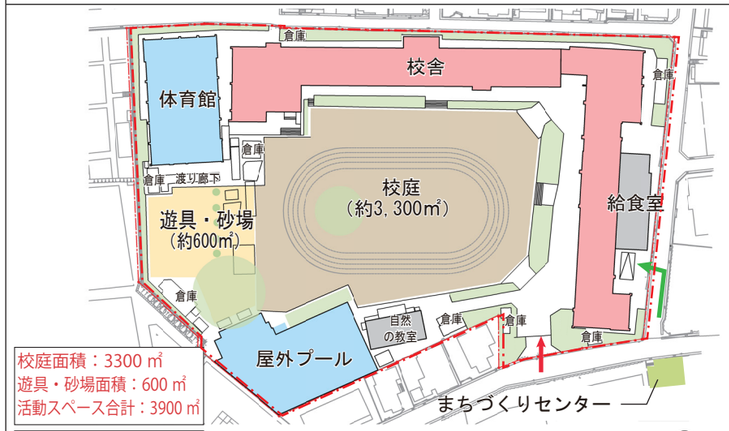
・学校とまちづくりセンターの複合化を活かし、多世代交流や地域活動、学びの機会を創出し、深沢への愛着を育む「まちの居場所」となる環境を整備します。
・校庭や学校施設を活用し、深沢のすべての子どもたちが、深沢小と関わることの出来る環境を整備します。
・日ごろの防犯や見守りやすさに配慮し、災害時には深沢の避難所・防災拠点として安全かつ円滑に利用できる施設計画とし、子どもとまちを守る学校づくりを進めます。

【４．深沢の自然と伝統を受け継ぎ、未来へつなぐ学校づくり】

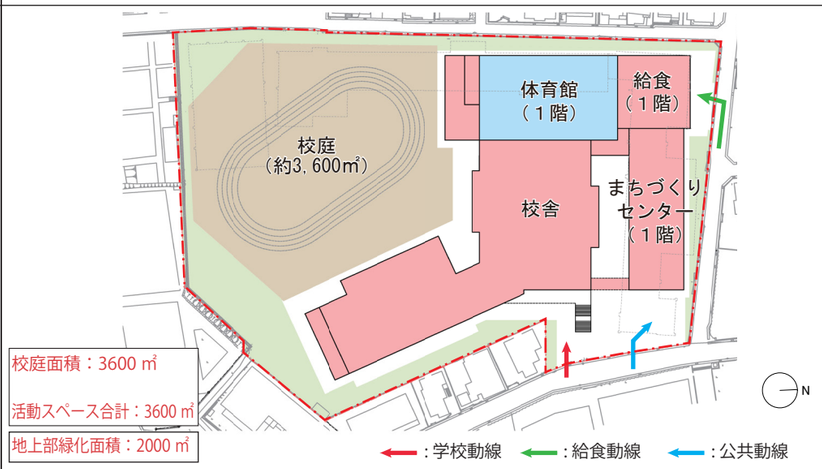
・緑や光、風などの自然環境を積極的に取り込み、子どもたちが季節のリレーを感じながら自然とふれあえる学校を整備します。
・木材の活用によるあたたかみのある空間をつくり、環境配慮の取り組みを「見える化」することで、学校そのものが環境学習の場となることを目指します。
・児童等の安全のため伐採が必要となる桐やイチョウなど既存樹木については、木材利用や学校の伝統の継承につながる活用を進め、深沢の風景や自然との交流を次世代へ引き継ぐ学校づくりを進めます。

【配置検討の前提条件】①校舎・体育館改築（3 階建て） ②桐の木は伐採（寿命のため） ③プールは設けない計画 ④仮設校舎は設けない計画

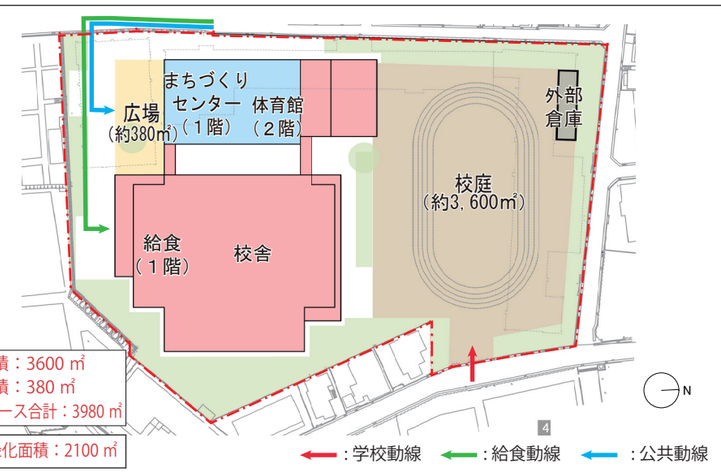
現在の校舎配置



整備方針をふまえた案



再検討案

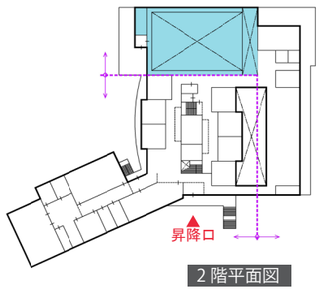


仮設校舎を設けた時の条件
（全機能移設で想定）

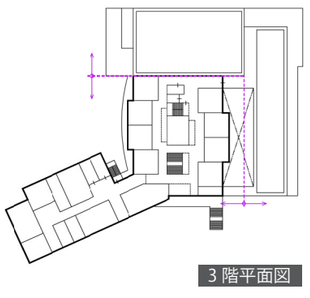
延床面積：約 4600 ㎡
賃貸借料：約 22 億 4 千万円
想定工期：14 ヵ月
（仮設校舎を設置しない場合よりも
14 ヵ月の延伸）

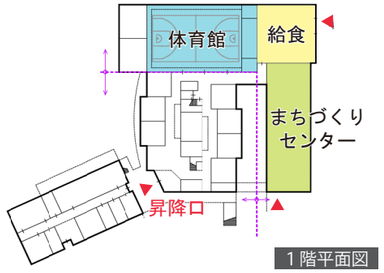
⇒仮設校舎は設置しない…④

凡例
- まちづくりセンター
- 体育館
- 給食室
- ▲ 昇降口・出入口
- 工事境界

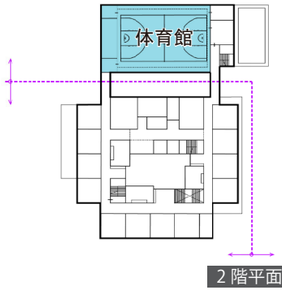


2 階平面図

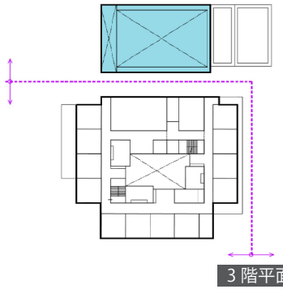

3 階平面図

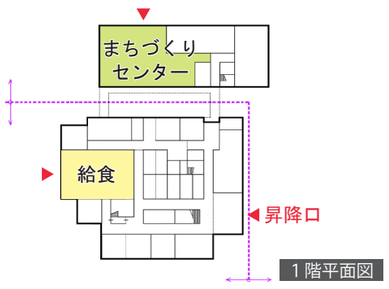


1 階平面図



2 階平面図


3 階平面図



1 階平面図

1	校舎形状（動線）・校庭面積	建物形状・動線が複雑化する。校庭面積：約 3,600 ㎡	建物形状がコンパクト、動線が明快。校庭面積：約 3,600 ㎡
2	工事期中の安全性	１期と２期の工事エリアが接近し、工事上の安全性が確保しづらい	１期と２期の工事エリアに十分な離隔があるため、整備方針をふまえた案よりも工事上の安全性を確保しやすい。
3	全体工期	既存校舎と既存体育館の解体時期がずれ、同時解体による工期短縮が見込めない。 既存校舎と新築工事エリアが接近するため、学校運営に伴う工事中断等、工期延長の可能性がある。	既存校舎と既存体育館の解体時期がずれ、同時解体による工期短縮が見込めない。 既存校舎と新築工事エリアの離隔を取れるため、学校運営による工期への影響は少ない。 １期棟で体育館以外のほとんどの教室をつくることができるため、児童の負担を軽減できる。
4	コスト	校舎形状が複雑化し、外壁面積が増加するため、コスト増となる。 工期延長によるコスト増の可能性がある。	校舎形状がコンパクトなため、外壁面積を抑えられ、コスト低減が見込まれる。 （敷地高低差解消によるコスト増の可能性がある。）
5	ゾーニング（セキュリティと安全性の確保）	学校とまちづくりセンターのアクセスが隣接するため、セキュリティを確保しづらく、児童動線と車両動線を分離しにくい	学校とまちづくりセンターのアクセスが東西に分かれるため、セキュリティを確保しやすく、児童動線と車両動線を分離しやすい。
6	自校調理の継続	工事期間中の自校調理継続不可 (給食室を２期棟に配置)	工事期間中の自校調理継続可能（給食室を１期棟に配置）
7	周辺環境への影響	東側隣地に近接（騒音・見合い・日影に影響）	東側隣地から比較的離隔をとれる。北側は圧迫感軽減、隣地の日照確保。粉塵対策が必要となる可能性がある。
8	普通教室の向き・環境	南・北向き（中庭に向く教室が暗がりになる懸念がある。）	南・北・東向き（緑に囲まれた教室配置となる。）